

鶴川東地区の新たな学校の校歌・校章の作成について

鶴川東地区の新たな学校の校歌・校章を作成に向けて検討するにあたり、必要となる基本情報について情報提供します。

教育委員会では、新たな学校に通う子どもたちが円滑に合流できるよう校歌・校章の作成について検討していきたいと考えています。

基本計画検討会においては、子どもたちの円滑な合流の実現にあたって、作成時期や作成方法についてご意見をいただければと思います。

1 校歌・校章について

(1) 校歌

自校の建学の理想や校風、地域の自然や歴史などを歌詞に織り込み、開校当時から歌い継がれており、児童・保護者等の連帯感を高めるものです。

(2) 校章

学校を象徴する紋章で、その多くは、校名や教育目標などを反映したデザインとなっています。

2 校歌・校章作成事例について

(1) 近年小学校の統合があった他市の校歌・校章の作成時期

学校名を反映して作成している傾向があるため、学校名を決定した後に校歌・校章を作成している事例が多くみられます。

また、統合前に作成する場合と統合後に作成場合があります。

統合前に作成する場合には、事前交流の一環という形で統合対象校の児童同士で作成を行ったり、作成後には統合に向けて一緒に合唱したりするなどしています。

統合後に作成する場合には、統合後の学校の雰囲気や地域の状況なども踏まえて、新しい児童たちで作成するなどしています。

学校名	中野区立 令和小	足立区立 江北小	北区立 十条小	立川市立 若葉台小
パターン	統合前に作成			統合後に作成
校名	2019年4月	2019年6月	2019年11月	2017年6月
校章	2019年10月	2020年3月	2021年4月	2019年2月
校歌	2020年1月	2021年3月	2022年2月	2019年2月
統合年度	2020年4月	2022年4月	2022年4月	2018年4月

(2) 作成方法

校歌や校章の作成方法について以下のような手法を他自治体でも採用しています。

作成方法	内容
公募	市の広報や学校だよりなどで公募し、選考会などで選定
児童の案	児童の案を元に先生や専門家が修補、選考会などで選定
地域に縁のある人に依頼	町田市や地域に在住または出身の方に依頼
地域の大学等と連携	地域の大学と協力して作成。(例：桜美林大学、玉川大学などに作成を依頼するなど)
学校の先生による作成	統合する学校同士または統合新設校の音楽や国語、図工の先生などに作成を依頼
専門家に依頼	作詞家や作曲家、デザイナーに依頼

3 鶴川東地区新たな学校の校歌・校章の作成時期・方法について

鶴川東地区の校歌や校章の作成にあたって、2026年度の統合に向けて、皆様からそれぞれの作成時期・方法についてご意見をいただきたいと思います。

4 鶴川東地区統合対象校の校歌・校章

(1) 鶴川東地区の小学校の校歌

<p>鶴川第二小学校</p> <p>作詞 野中 十三夫 作曲 渡辺 茂</p> <p>一 みどりの風に 鳥うたい 光あふれる この大地 そびえたつ われらの 心のふるさと かがやく 母校よ 鶴川二小 手をとりあつて 肩くみあつて ともに学ぶ 鶴二の子 われら</p> <p>二 はるかにかが 富士をみて つよく おおしく たくましく そだちゆく われらの 未来はひろがる ゆめ多き 母校よ 鶴川二小 手をとりあつて 肩くみあつて ともに進む 鶴二の子 われら</p>

<p>鶴川第三小学校</p> <p>作詞 谷川 俊太郎 作曲 山本 直純</p> <p>わらう おこる ベそをかく こころがゆれる こころがはずむ こころが こころを よんでいる あのもと このまど ともだちだ ちえをあつめ みんなのあしたを つくつてゆこう こころは じるとびこえる からだは じなつ からだは はずむ からだから だかぶつかる あのかた このかた ともだちだ ちからを あわせ ひとつのちきゅうを まもつてゆこう</p> <p>【注】歌詞章節に番号なし</p>
--

(2) 鶴川東地区の小学校の校章とその由来

小学校名	校章	由来
鶴川第二小学校		<p>桜は日本の代表の木で、桜花は美しさをもって社会に広く使われている。</p> <p>しかし、鶴川第二小学校では、桜の「葉」の美しさを用い、鶴川地区で二番目の開校なので、「抱きさくら葉」(二枚の葉)の上に「向鶴」(二羽の鶴)を表し、小学校の「小」の文字を組み合わせた。</p>
鶴川第三小学校		<p>鶴川で三番目の小学校のため、三羽の鶴を図案化した。</p> <p>三和の鶴には、知・徳・体の調和のとれた人間形成をめざし、健康で思いやりがあって進んで考える子どもになってほしいという三つの願いが込められている。また、手をつないでいるのは三つの学校の和合を表している。</p> <p>内側の地色の赤紅は、「いぼ草」の花の色で、沼や沢の多い農村であったふるさと鶴川を象徴している。</p>

■出典：「町田市立小・中学校校歌集」